

令和4年度第6回理事会議事録

1. 日 時：令和5年1月23日（月）18：30-20：15
2. 出席者：奥沢悦子、吉田泰憲、須藤安史、逆井久美子、川口裕美、佐藤舞、高松みどり、
小山内誠、津嶋里奈、齋藤賢、鹿摩悟、中村安孝、國分慎、四釜育与、
田村栄子、吉岡治彦、齋藤浩治、石山雅大
3. 欠席者：木村正彦、河村義雄

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に奥沢会長があたり、書記に齋藤賢理事が指名され、審議が行われた。審議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、オンラインで行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告
特になしと報告があった。
2. 公益部経過報告
特になしと報告があった。
3. 渉外部経過報告
特になしと報告があった。
4. 事務局経過報告
特になしと報告があった。
5. 奥沢会長より報告
1/21（土）東京：日臨技理事会開催
・臨地実習指導者講習会の受講制限が解除された。
次回3/12開催（事前受講約500分が必要）
・タスク・シフト/シェア指導講習会開催は受講者数割れが生じる場合への対応として、
4月以降、都道府県の縛りが無くなる。
・6/24（土）令和5年度定時総会・70周年記念式典開催（目黒雅叙園）

【議題】

1. メーカー研修会について、会員への周知事項の見解統一
賛助会員の場合、研修会をHPへ掲載していた。賛助会員以外の場合は理事会にかけて掲載するかどうか決定していた。今後も同様の対応とする。
2. 理事交代が発生した場合について
定款上は任期が2年なので継続が基本だが、特別な事情がある場合は総会にかけて承認を得なければならない。
3. 第47巻会誌、70周年記念号作成の進捗状況について
 - ① 第47巻会誌
 - ・支部便りで修正が必要な部分を確認している。また、各支部でレイアウトが異なるため統一した方がいいのではないかという意見が出ている。
 - ・文章を修正した場合、()を足す程度であればサイボウズのファイル管理内の文章は変更しない。但し、文章の表現などを大きく修正する場合は一度支部に戻して確認してもらう。
 - ② 70周年記念号
 - ・1月下旬から2月上旬にファイル完成予定。
 - ・日臨技の北日本支部における功労賞や奨励賞について齋藤浩治監事に確認した。東北臨床検査技師会だった頃は功労賞や奨励賞があったが、日臨技の北日本支部になった時点で功労賞は無くなった。奨励賞は学会で発表した方を対象に表彰していた。
 - ・60周年記念号の前年の県の功労賞と奨励賞の記載が無かったため、会報の36号もしくは37号に記載されているかどうか事務局で確認することとなった。
4. 精度管理について
 - ・報告会の開催日時、方式
2月下旬もしくは3月上旬にZoomでのWeb開催とする。
詳しい日時は吉田副会長がサイボウズ上で各部門長と相談して決める。
 - ・施設参加証の作成
フォーマットあり。印刷後に会長の公印を押して郵送するが、日臨技の会員がいない施設には送らない。次回からは参加時に会員番号の入力を義務付ける。

5. 青森県医師会精度管理について、現状報告
毎年、比較的多くの施設で記入ミス（誤入力、データ桁違い等）が発生している。
最終的に医師会へまとめて報告するにあたり、記入ミスは重大な問題である。
サイボウズで意見を出し合い、対策を考えていくこととなった。
6. 会誌投稿規定の修正等について
今まではなるべく日臨技に合わせて修正してきたが、完璧ではないのでより良くなるように直してもよいのではないかという意見が出た。投稿規定を修正する場合は理事会の承認が必要。
7. 奨励賞、功労賞について
- ・奨励賞は今のところ申請なし。自施設に候補者がいないか確認する。また、部門長にも候補者探しを打診する。
 - ・功労賞は候補者が4名。
 - 1, 野坂 享治（ノザカ キョウジ）青森市民病院
 - 2, 中村 洋子（ナカムラ ヨウコ）弘前市医師会健診センター
 - 3, 米沼 順子（ヨネヌマ ジュンコ）下北医療センター むつ総合病院
 - 4, 千葉 祐二（チバ ユウジ）公益財団法人シルバーリハビリテーション協会
メディカルコート 八戸西病院
- 理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。
8. 永年会員の会員証について
日臨技を退会すると会員証の返却を求められる。会員番号は生きていて青臨技永年会員として在籍するが、証明するものがないため、研修会等の参加の際に困惑するという事例が発生した。
永年会員の人数はそこまで多くないため名刺サイズの会員証を作って配布してはどうかという提案があった。
理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。
9. 第72回日本医学検査学会の座長依頼について
生物化学（十和田市立中央病院 前山宏太技師）、病理（弘前大学医学部附属病院 熊谷直哉技師）で各1名決定。
施設より旅費の補助がないため、技師会より出してよいか。という提案があった。
理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

10. 県学会の進捗状況について

インフォメディアリと会場のプラザホテルむつに通信状況を確認してもらった。特別講演はこれから探す予定。ランチョンセミナーは事務局から賛助会員へ連絡し、応募してもらおう。前回の演題募集は1月に開始しているので今回も同じタイミングで演題募集の依頼をかける。演題募集の締め切りや抄録の提出日も早めにアナウンスが必要。総会と学会を同日に行うかどうか、前回から修正した方がよい部分も含めサイボウズで意見を出して決めていくこととなった。

11. 高校生心電図の人員削減依頼について

県医師会より、県内の高校生は現在7000人台と減少しており高校生心電図への技師の派遣が割に合わなくなっている。技師の派遣人数を現状の2ベッドに対して3人から2ベッドに対して2人へ変更してはどうかという提案があった。変更しない場合は日当が11000円から8000円程度まで下がる見込み。日当は高校生が10000人以上いた時代は13000円だったが、10000人を切った時に現在の11000円へ変更されている。参加理事からは派遣技師を減らすことによって今まで高校生心電図を担ってくれていた技師の負担が大きくなることや、午後から実施した場合時間内に終わらない可能性があるといった問題点が挙げられた。現状を理解してもらうために県医師会とZoomで直接交渉する方向で進めることとなった。

12. HP担当者が諸事情により情報をアップロードできない場合の対処について

HP担当者が情報をアップロードできない時期があり、一斉メールで凌いだ。同様の状況が発生した場合、今後も一斉メールで対処することとなった。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

【その他】

1. 第72回日本医学検査学会について

演題数が目標の500を達成した。

2. 第49回日本診療情報管理学会学術大会（9/14～15開催）

後援依頼を引き受けた。

3. 地域ニューリーダー育成研修会について

逆井久美子事務局長が参加予定。今後もニューリーダーを人選していく。

研修会の青臨技の負担金は約3万円。

負担金について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

4. 都道府県災害マニュアル説明研修会について
木村正彦副会長、須藤安史渉外部長が参加予定。
5. 会計に関して
令和5年度の予算案を作成した。
修正箇所などサイボウズで意見を出し合うこととなった。
6. 県自治体病院協議会について
来年度共催する。
7. 事業計画について
令和5年度の事業計画を作成した。
修正箇所などサイボウズで意見を出し合うこととなった。
8. 臨地実習指導者講習会について
令和4年入学者の臨地実習から、臨地実習指導者を1名以上配置する施設でのみ、臨地実習を行えることとなるため、県全体で協力が必要。
9. タスク・シフト/シェア講習会について
令和4年度は5月15日に57人、12月25日に52人受講。実務員7人は令和3年11月に仙台で受講しているため、県全体で合計116人が受講済み。現在、Web講習受講済みが84人、受講中は79人となっている。令和5年度の講習会1回目は5月14日を予定している。受講生50人以上を確保することと、2回目を開催するためにもWeb講習の受講を促す必要がある。

上記の事項について理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

会長 印

監事 印
印